

# 令和 7 年度 事業報告書 吉祥院いきいき市民活動センター

【指定管理者：NPO 法人ふれあい吉祥院ネットワーク】

## 1. 管理運営の状況

### 1 施設運営業務

#### (1) 職員体制

センター長 1 名、職員 5 名（常勤 2 名、非常勤 4 名）

##### 【人材育成の取組】

日常業務の中での指導や声掛けを通して、職員一人ひとりの利用者対応力の向上に取り組んでいる。

・人権フィールドワーク等に参加し、人権に関する理解を深め、その学びを日々の利用者対応や事業運営に活かしている。

・月 1 回のミーティングの場を設け、業務内容や課題について情報共有を行うことで円滑な施設運営につなげている。

・主催事業には職員が積極的に関わり、企画や運営を経験することで、企画力・調整力の向上を図っている。

・緊急時の対応について確認を行い、安全管理に対する意識を高めている。

#### (2) 貸館等

##### ア 利用件数

(月別)

| 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|-----|-----|-----|
| 116 | 124 | 123 | 127 | 111 | 112 | 129  | 130  | 115  | 101 | 109 | 145 |

(年間)

1442 件（前年度比 104%）

##### イ 利用状況

○ 今年度は、単発利用および定期利用のいずれも増加傾向が見られた。

平日の夜間については、ダンス系サークルや空手、事業者による定期利用が重なり利用が集中して高い稼働率となっている。

日曜日の定期利用についても増加が見られ、楽器演奏や居合などの活動での利用が広がっている。

特に、定期利用団体においては、団体利用に加えて個人レッスンとして施設を活用されるケースが増え、利用形態の多様化が進んでいる。

また、詩吟の発表会に向けた練習利用として、和室の利用が増加した。

料理室については、新規利用として、会議室を不定期に利用しているサークルが料理室の存在を知り、味噌づくりに活用したほか、ロコミを通じて地域のスポーツクラブがイベントとして利用するなど、認知度が少しずつ高まってきているように感じる。

○ 平日の午前中には利用に余裕がある時間帯も見られ、料理室についても利用はやや増加しているものの、十分とはいえない状況であることから、今後も利用促進に努めていきたいと考えている。特に、いきセンの中でも料理室を備えている施設は限られているため、当センターの特色を活かした取り組みを考えていく。

#### ウ 利用促進に向けた取組

○ 来館者への直接的な周知として、事業参加者やサロン利用者に対して貸館利用の案内を実施した。館内掲示においては利用料金や活動事例を分かりやすく提示するとともに、利用相談の際には活動内容に応じた部屋・時間帯の提案を行い、新規・継続利用の促進を図った。

環境整備については、利用者の声を踏まえた改善を順次実施した。和室では隙間風による寒さ対策としてガスファンヒーターを追加設置したほか、会議室にはホワイトボードを導入し、黒板との使い分けが可能となった。料理室ではガスコンロが老朽化し使いにくいとの声があったため、新調を行ったほか、市民からの寄付により店舗で使用されていた魚焼きグリルを設置した。いずれも利用者から好評を得ている。

#### エ その他

○ 事業来館 1626 名（うち自由来館 365 名）

前年対比 120%（事業来館 1297 名（うち自由来館 357 名））

今年度の事業の一環として「いきセン物々交換会」を定期的に開催したことで、参加を通じてサロンの利便性や気軽に立ち寄れる環境の良さを知る利用者が増加した。また、サロン事業への参加をきっかけに交流が深まった高齢者同士が自然と集まり、折り紙を楽しみながら和やかに談笑する様子も度々見られ、参加者間の自然な交流の場として機能していることが確認できた。

### （3）情報発信等

#### ア 取組実績

○ ・7 年度も引き続き、Instagram、Facebook、ホームページ、LINE 公式アカウント等の SNS を活用し、事業開催前の周知および開催後の様子発信を継続的に行った。

・利用者の発表の場である「ふれあいひろば」においては、チラシに昨年度の開催状況を動画で閲覧できる QR コードを掲載し、来場者が具体的なイメージを持てるよう工夫した。

・近隣の教育機関に対しては職員が直接訪問しチラシを配布することで、対面による周知と参加の呼びかけを実施した。

・来館者や事業参加者に積極的に声をかけた。

#### イ 取組の効果

○ これらの取り組みにより、市民活動に対する関心の高まりや、センターへの問い合わせの増加など、一定の効果が見られた。

「ふれあいひろば」の来場者は昨年度と比較して大幅に増加し、来場者が市民活動団体の発表を直接目にすることで活動内容への理解が深まり、参加希望や活動に関する相談が寄せられた。

団体同士の交流も生まれ、新たな事業の検討や今後の連携につながる動きも見られた。対面での周知により、事業内容を直接説明できたことが、参加者の増加につながったものとする。

#### (4) 管理運営

##### ○・電気工作物点検

- ・貯水槽清掃
- ・消防委設備の保守点検
- ・会議室 1・2、廊下のワックスがけ
- ・植栽等、高木に関しては剪定業者に依頼
- ・草花の植栽や手入れ、雑草抜き

外部業者に委託

- ・日常的に、館内及びサロンの点検・清掃 等を実施

#### (5) その他

##### ○・各事業実施後にできるだけ

アンケートを取り、参加者の意見や満足度の把握に努めた。

アンケートでは、事業内容に対する評価だけでなく、次回開催に向けた改善点や、市民が今後実施してほしい具体的な事業内容やテーマについての要望を収集し、次回以降の事業企画に活かしている。

・利用者が快適に過ごせる環境整備の一環として、これまで扇風機しかなかった別館サロンのロビーにエアコンを設置した。

その結果、夏場でも快適に利用できる空間となり、サロンで休憩して帰る来館者も増えた。

また、サロンでの事業開催においても、スペースを広く活用できるようになり、より多くの来館者を受け入れることが可能になった。

## 2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】 吉祥院六斎念仏保存活動支援事業（サロン運営・活性事業）

- ① 指導者の育成支援
- ② 運営委員支援
- ③ 後継者育成支援（ア. 六斎工作教室 イ. 六斎総合学習 ウ. 伝えようプロジェクト）
- ④ 情報発信・広報支援
- ⑤ 施設設備

### 事業の概要

- 1 開催日時：①令和7年4月～令和8年3月（全10回）19時～21時  
②令和7年4月～令和8年3月（全7回）  
③ア）令和7年7月26日（土） 10時30分～12時30分  
イ）令和8年1月19日（月） 10時30分～12時  
ウ）令和7年4月～令和8年3月 第2・4金曜日 19時～21時（全30回）  
④・鑑賞会：令和7年4月～令和8年3月  
・SNS発信：随時（年間10回程度）  
⑤・六斎資料コーナー：令和7年4月～令和8年3月 随時
- 2 開催場所：①②吉祥院いきいき市民活動センター別館サロン  
③ 吉祥院いきいき市民活動センター別館サロン、六斎資料室、会議室1  
④ 撮影：吉祥院天満宮（4月25日、8月25日）  
梅小路公園（11月2日 京都青年中央会祭）  
⑤ 吉祥院いきいき市民活動センター別館サロン、六斎資料室
- 3 参加人数：①10名（六斎保存会）  
② 5名（六斎保存会）  
③ア）17名  
イ）80名  
ウ）各回5名  
④再生回数約1500回  
⑤約100名（サロン来館者）
- 4 協力団体等：吉祥院六斎保存会・吉祥院小学校
- 5 予算： 867,000円 / 決算： 792,912円

## 1 事業内容

### ① 指導者の育成支援

獅子舞の構造や動きを記録するため、獅子舞の内部の様子を撮影し、今後の教材づくりに活用できる素材を整えた。  
指導者がいつでも学び直せるように、その成果を生かせる環境を整えた。

### ② 運営委員支援

保存会との会議を設け、来期の活動方針や課題について主に意見交換し、円滑な運営に向けた支援を行った。

### ③ 後継者育成支援

子どもや、地域住民を対象とした体験・学習の機会を設けた。  
夏休みには工作教室を開催し、六斎で使用する四つ太鼓を廃材で制作し、六斎の歴史や太鼓の叩き方を学ぶ機会を提供した。  
吉祥院小学校3年生を対象に総合学習を実施し、資料室見学や獅子舞の見学、太鼓体験を保存会メンバーによる実演などを通して理解を深めてもらった。さらに、かつて子ども六斎に関わっていた方へ声をかけ、指導者として関わってもらえるよう働きかけた。

### ④ 情報発信・広報支援

吉祥院天満宮での奉納や京都青年中央祭の様子を動画で記録し、YouTubeで公開するとともに、InstagramやFacebookを活用して講演や活動情報の発信を行った。

### ⑤ 施設設備

別館サロンに保管されている写真や衣装、資料を整理し、資料室の展示内容を更新することで、来館者がより理解しやすい環境づくりを進めた。

## 2 準備段階での工夫

### ① 指導者の育成支援

教材づくりでは、単なる記録にととまらず、指導時に活用しやすいよう視点や構成を工夫して撮影した。

### ② 運営委員支援

限られた時間の中ではあったが具体的な方向性が見えるよう工夫した。

### ③ 後継者育成支援

子どもたちが楽しみながら理解できるよう、見る・作る・体験する複数の要素を組み合わせた内容とした。

### ④ 情報発信・広報支援

活動の魅力が伝わる場面を意識して記録・発信を行い、より多くの人に関心を持ってもらえるよう工夫した。

### ⑤ 施設設備

来館者目線で展示内容や配置を見直し、見やすさ、分かりやすさを重視した。

○他センターにはない独自の広報の工夫などがあれば記載してください。  
地域団体のイベントやふれあいひろばに参加し、子ども六斎の演目を披露する機会を設けた。各会場で吉祥院六斎念仏のInstagramのQRコードを掲示し、来場者の方に気軽にフォローしていただけるよう工夫した。

### 3 事業実施による効果・達成度

#### (1) 当初の事業効果, 目標等

吉祥院六斎念仏の保存・継承を図るため、指導者の育成運営体制の強化・後継者の確保地域への認知拡大を主な目標としていた。また、体験や学習を通じて、子どもたちや地域住民が六斎に親しみを持つきっかけづくりを目指した。

#### (2) 事業実施による目標の達成度

各取り組みを通じて、一定の成果が得られたと考える。教材づくりでは、今後の指導に活用できる資料の基盤を整えることができた。運営面でも委員会を通じて来期に向けた方向性の共有が進んだ。 工作教室や総合学習を通じて、子どもたちが六斎に触れる機会を創出でき、興味や理解の向上につながり、2～3 名ではあるが子ども六斎の練習に参加者が増えた。吉祥院天満宮春・夏の大祭での奉納の様子や演目ごとに編集したダイジェスト動画は、伝統芸能に関心をもつ方々から好評を得た。映像として発信することで、吉祥院六斎念仏の認知度向上と魅力の発信につながった。また、六斎保存会自身の Instagram のフォロワーも年間で 30 名ほど増え続けている。

記録映像として残すことで、後継者育成の今後の活動資料として活用できた。

特に今年度は若手育成の面で大きな前進があり、これまで 25 年以上にわたって獅子舞を支えてきたベテラン 2 名から若手への引継ぎが実現し、2 体ある獅子舞のうち主となる 1 体を若手が担う体制へと移行した。長年の経験と技術をもつベテランの存在は引き続き重要だが、今回の世代交代は、継続的な発展に向けた大きな一歩となった。

### 4 今後の抱負

これまで作成してきた教材や記録を活用し、指導内容の見える化を進め、誰もが関われる環境づくりに取り組んでいく。情報共有と意見交換を継続し、無理のない運営体制につなげたい。

これまでの体験事業や学習の機会を活かし、子どもたちや若い世代が継続して関われる仕組みづくりを進める。来期には洛南中学校と連携し、道徳学習の一環として六斎の歴史や文化を伝える機会を設け、次世代の継承につなげていく。

今後も情報発信を継続しながら、活動の魅力を広く伝えていきたい。

● 六斎工作教室 ●



● 子ども六斎練習風景 ●



● 吉祥院天満宮奉納 ●



● 六斎総合学習 ●



【事業名】地域課題及び人材育成事業（市民活動支援・活性化事業）

- ① ふれあいジャンボリー実行委員会自立に向けた支援  
（ア 実行委員会 イ 第25回吉祥院ふれあいジャンボリー）
- ② 吉祥院トーク  
（ア 会議 イ 植物採集 ウ 標本づくり エ 昔遊び・風呂敷包み）
- ③ いきセン講座：南青少年活動センター主催オンラインセミナーのパブリック会場として共催  
ア「10代の若者と向き合う支援者の実践的な包括的性教育」  
イ 若年女性たちのリアルと支援～アウトリーチ活動の現状と課題～  
ウ 自死予防の研究と実践の現在地～子ども若者のSOSを地球で受け止める～

事業の概要

- 1 開催日時：①ふれあいジャンボリー自立に向けた支援  
ア) 令和7年5月19日(月)・7月14日(月)・9月11日(月)・10月6日(月)  
12月8日(月)・令和8年3月23日(月) 19時～20時30分  
イ) 令和7年10月18日(土) 9時45分～14時  
②吉祥院トーク  
ア) 令和7年6月18日(金)・9月29日(土)・11月17日(水)  
令和8年3月23日(月) 19時～20時  
イ) 令和7年7月27日(日) 8時～9時  
ウ) 令和7年8月3日(日) 8時～9時  
エ) 令和7年12月14日(日) 11時～15時  
③いきセン講座  
ア) 令和7年8月8日(金) 13時～15時  
イ) 令和7年12月18日(木) 13時～15時  
ウ) 令和8年3月9日(月) 13時～15時
- 2 開催場所：①ア) 吉祥院いきいき市民活動センター 会議室1  
イ) 吉祥院小学校  
②ア) モンテ豆茂  
イ、ウ) 吉祥院小学校  
③ア) 吉祥院いきいき市民活動センター別館サロン  
イ、ウ) 吉祥院いきいき市民活動センター会議室2
- 3 参加人数：①ア) 各回約30名  
イ) 約500名  
②ア) 各回4～8名  
イ、ウ) 各30名  
③ア、イ、ウ) 各回3名
- 4 協力団体等：吉祥院小学校・吉祥院小学校PTA・洛南中学校・青い空保育園・  
市政協力委員会・吉祥院社会福祉協議会・吉祥院小学校おやじの会  
六斎保存会・吉祥院児童館・自主防災会・吉祥院少年補導委員会  
吉祥院防犯推進委員会 南青少年活動センター 等
- 5 予算： 840,000円 / 決算： 821,507円

## 1 事業内容

### ① ふれあいジャンボリー実行委員会自立に向けた支援

吉祥院ふれあいジャンボリー実行委員会の自走化を目指し、運営体制や運営資金の整備を進める。

今後の支援のあり方について実行委員会の理解を深めるための支援を行う。

本事業は4年間の集大成として位置づけられ、本年度が最終年度となる。

### ② 吉祥院トーク

地域のまちづくりに関心のある人材を発掘し、地域の活性化につなげていくことを目的とする。地域住民との会議や対話を重ねる中で出たアイデアをもとに、今年度は身近な自然や地域資源に目を向けた取り組みを行った。

吉祥院小学校に生えている草花を採集し、それらを押し花にして標本づくりに挑戦した。

また、「ふれあいひろば」では、昔遊びや風呂敷包み体験のブースを担当し、

いきセン利用者や地域の方々と交流する機会を設けた。

### ③ いきセン講座

南青少年活動センターが主催するオンラインセミナーを、当センターにおいてパブリックビューイング会場として共催する形で実施。

オンライン配信を活用しながら、地域の支援者や関心のある市民を集い、学びと気づきを共有する場づくりを行った。

## 2 準備段階での工夫

### ① ふれあいジャンボリー実行委員会自立に向けた支援

#### ・役割の見える化、分担の工夫

各団体の特性や実情（年齢層や活動状況など）を踏まえ、それぞれが無理なく担える役割を整理し、明確化した。

#### ・マニュアル、ノウハウの整理

過去の運営内容を記録として整理・蓄積するとともに、チェックリストや進行スケジュールを作成し、円滑に運営に携われるよう資料の整備を行った。

#### ・資金面の安定化の工夫

収支の見える化に向けて予算書、決算書を整備するとともに、協賛や寄付、地域との連携についても検討を進めた。また、無理のない開催規模設定をすることで、継続しやすい運営を意識した。

#### ・段階的な権限移行

徐々に実行委員会が主体となる運営へ移行した。会議の進行や意思決定も委員会に委ねるようにし、適切なタイミングで「見守り」へと関わり方を切り替えることを意識した。最終年度であることを踏まえ、特に重要な取り組みとして進めた。

#### ・振り返りと改善の仕組み

定期的な会議を通じて課題の共有を行い、小さな取り組みを重ねながら改善を図った。

#### ・各団体同士の関係づくりを大切にした。

## ② 吉祥院トーク

- ・ 活動を進めるにあたり、地域住民同士の意見交換を大切にし、自由にアイデアを出せる雰囲気づくりを意識した。
- ・ 丁寧に声を拾いあげ、具体的な活動へ落とし込むことで、より地域に根ざした内容となるよう工夫した。植物採集・標本づくりについては、安全面や作業のしやすさに配慮し、子どもたちが多く参加できるよう夏休みに小学校で実施。暑さも考えて開催時間を早めるなどの工夫をしながら準備を進めた。

## ③ いきセン講座

センターがパブリックビューイング会場となることで、個人では参加が難しい方にも学びの機会を提供した。

## 3 事業実施による効果・達成度

### (1) 当初の事業効果、目標等

#### ① ふれあいジャンボリー実行委員会自立に向けた支援

今年度は、4年間の取り組みの集大成として、地域の力で自立的に継続していくための体制を確立することを目的としている。特定の人に負担がかからない持続可能な運営へとつなげていく。

#### ② 吉祥院トーク

地域の自然や文化に親しみながら、その魅力に気付いてもらうことを目的として取り組んだ。子どもたちを中心に、地域の方々との交流の機会を大切にしながら、草花の採集や押し花づくりといった体験を通して、身近な自然に触れるきっかけをつくることを目標とした。また、「ふれあいひろば」では昔遊びや風呂敷包みなどの日本の文化に触れる体験の場を設け、世代を超えた交流や文化への関心を深めてもらうことを目標とした。

#### ③ いきセン講座

若者支援に関する知識の普及や、支援者同士の学びあい、地域における課題意識の共有を主な目標とした。

### (2) 事業実施による目標の達成度

#### ① ふれあいジャンボリー実行委員会自立に向けた支援

各団体がそれぞれの得意なことを活かし、無理のない範囲で役割を担いながら、みんなで主体的に関わる体制が少しずつ整ってきた。そうした積み重ねの中で、実行委員会としての運営力も着実に高まってきたように感じる。

また、今年度は特に、PTAをはじめ各種団体のみなさんと、これまで当センターが主体となって進めてきたことも一緒に取り組む場面が増え、連携しながら進めていく体制がより深まった一年となった。

運営に必要な知識やノウハウも少しずつ蓄積され、継続的に活動していくための仕組みづくりにもつながった。

事務局(とりまとめ)については、4年間の取り組みを経て、当センターに代わり、地域の団体が主体的に担ってくださることとなった。会議の場だけでなく、日常的なやり取りの中でも何度も話し合いを重ね、調整が難しい場面もあったが、最終的にはみなさんが納得できる形で方向性をまとめることができた。4年間の取り組みの積み重ねが実を結び、実行委員会が主体となって運営を担う体制へと移行することができた。

## ② 吉祥院トーク

事業を通して、参加者が地域の自然や文化に対して親しみを感じる様子が見られ、当初の目的に近づくことができた。草花の採集や押し花づくりでは、「学校にも色々な花が咲いていた、今まで気付かなかった」という声が聞かれ、子どもたちにとって印象に残る体験となったようであった。また、自分で選んで採集した草花を使い、嬉しそうに押し花を楽しむ姿が見られた。

「ふれあいひろば」での出展では、多くの方に参加いただき、昔遊びや風呂敷の新しい使い方に驚く声もあり、自然と会話が生まれるなど、世代を超えたあたたかい交流の場となった。全体として、無理なく楽しく取り組みながら、目標に沿った成果を得ることができた。

## ③ いきセン講座

参加者からは、具体的で実践に結び付く内容が多かったことから、日々の活動に活かせる気づきが得られたとの声が聞かれ、地域の課題を自分ごととして捉えるきっかけにもつながった。当初の目標に対して一定の達成が得られたと考える。

# 4 今後の抱負

## ① ふれあいジャンボリー実行委員会自立に向けた支援

今後は、実行委員会主体での運営体制のもと、継続的に活動が展開されていくことを期待する。また、無理のない運営を続けながら、世代交代や新たな担い手の参加が進み、地域とのつながりを大切にしたイベントとして、今後も発展していくことを願う。

## ② 吉祥院トーク

今回の活動で得た繋がりや経験を生かし、より多くの人に関われる取組へと発展させていくとともに、地域の魅力を再発見できるような活動を継続していきたい。

## ③ いきセン講座

より多くの方に参加していただけるよう周知に力を入れる。参加者が固定化しないよう新規参加者の呼び込みにも取り組み、参加人数の拡大を図っていく。



● ジャンボリー=会議 ●

● 前日準備 ●



● 吉祥院ふれあいジャンボリー ●



● 吉祥院トーク ●



● 植物採集・標本作り ●



● いきセン講座 ●

【事業名】 市民活動スタートアップ・活性化支援事業（市民活動支援・活性化事業）

- ① サークル活動立ち上げ支援（ア 音楽サークル イ ストレッチ同好会 ウ 沖縄空手）
- ② ふれあいひろば（ア ふれあいひろば交流会 イ ふれあいひろば ウ みんなの文化祭）
- ③ いきセン講座

事業の概要

- 1 開催日時：①サークル活動立ち上げ支援
  - ア) 令和7年4月5日(土)、5月17日(土)、6月7日(土)、7月5日(土)  
9月6日(土) 13時～14時
  - イ) 毎月第1、第3月曜日 ※祝日は休み  
令和7年4月7日 21日、5月19日、6月2日 16日、7月7日  
8月4日、9月1日、10月6日、11月17日、12月1日 15日  
令和8年1月5日、2月2日 16日、3月2日 16日  
13時30分～14時30分
  - ウ) 令和7年10月3日(金)、11月7日(金) 19時～20時30分
- ②ふれあいひろば
  - ア) 令和7年6月16日(月)、7月23日(水)、9月22日(月)  
10月22日(月)、12月3日(月) 19時～20時
  - イ) 令和7年12月14日(日) 11時～15時
  - ウ) 令和8年3月15日(日) 10時30分～16時
- ③いきセン講座
  - 令和7年12月14日(日) 11時～15時
- 2 開催場所：①サークル活動立ち上げ支援
  - ア、イ) 吉祥院いきいき市民活動センター別館サロン
  - ウ) 吉祥院いきいき市民活動センター会議室1・2
- ②ふれあいひろば
  - ア) 吉祥院いきいき市民活動センター会議室1
  - イ) 吉祥院体育館
  - ウ) ひと・まち交流館 京都
- ③いきセン講座
  - 吉祥院体育館
- 3 参加人数：①ア) 延べ29名 イ) 延べ169名 ウ) 延べ5名
- ②ア) 延べ24名 イ) 約500名 ウ) 170名
- ③約500名
- 4 協力団体等：吉祥院少年補導・自主防災会・吉祥院小学校おやじの会・吉祥院老人デイサービス・南エコまちステーション・上鳥羽北部いきいき市民活動センター・六斎保存会等
- 5 予算： 730,000 円 / 決算： 746,247 円

## 1 事業内容

### ① サークル活動立ち上げ支援

多様な市民活動を行う方に対し、チラシの作成や SNS での発信などの広報面と、活動場所の提供を通じて、それぞれが自立して活動できるよう支援した。

ア) 各自の楽器を持ち寄って演奏を楽しむ会

イ) 有志が集まり、ストレッチを中心に運動する会

ウ) 健康づくり・護身術・ダイエットなど目的を定めて楽しく空手を体験

### ② ふれあいひろば

ア) 市民活動者同士の交流の場を設け、ふれあいひろば開催に向けての協議を行った。

イ) 市民活動団体の活動紹介や発表の場。また、他域団体との交流を目的

とし 21 団体の参加、ワークショップ形式とステージ形式で実施した。

ウ) いきいき市民活動センター、市民総合センターを拠点に活動する団体が一堂に集い、活動発表や作品展示の場とする文化祭的イベント。

### ③ いきセン講座

市民活動をテーマにした講座を行い、市民参加の“きっかけ”としてもらう。市民活動活性化のスキルアップを図る。

集客が見込める「ふれあいひろば」にて実施。淀川管内河川レンジャーの活動をされておられる方が、桂川の魅力を伝える活動と今とむかしの水害について発表された。

## 2 準備段階での工夫

### ① サークル活動立ち上げ支援

ア) 気軽に参加できるよう、楽器の種類を問わず参加しやすい雰囲気づくりを心がけた。

イ) これまでリーダーを持ち回りで担っていたが、負担軽減のためリーダーを設け、安心して参加できる体制を整えた。

ウ) 初心者でも安心して参加できるよう、基礎から学べる内容とし、目的（健康・護身・体力づくり）に応じた参加を促した。

### ② ふれあいひろば

ア) ふれあいひろばの円滑な運営につなげるため、事前に市民活動者同士の交流会を開催し、当日の流れや発表内容、ステージプログラムの順番、チラシの内容、広報の仕方などについて意見交換を行い、参加団体間での共通理解を深めた。

また、LINE グループを活用することで、交流会に参加できなかった団体に対しても情報を共有し、より多くの関係者が共通認識をもてるよう工夫した。

イ) 参加団体が発表しやすいよう、ワークショップ形式とステージ形式の両方を取り入れ、チラシには昨年の様子を動画で見られる QR コードを掲載し、事前に会場の雰囲気が伝わるよう工夫した。また、会場にはバルーンによるフォトスポットを設けるなど来場者が楽しめる空間づくりを行った。さらに、以前から事業アンケートや市民活動団体から「昼食をとれるよう、飲食ブースがあると嬉しい」との声が多く寄せられていたことを踏まえ、吉祥院おやじの会に協力を依頼し、ハンバーガーと焼きそばの飲食ブースを出展してもらった。来場者からも好評であった。展示ブースは昨年の反省を踏まえて配置を見直し、ステージについても観客や出演者の動線を考慮した進行とするなど、全体の運営面でも改善を図った。

ウ) 複数回の zoom 会議を重ねて情報共有や役割分担の調整を丁寧に行った。

当センターとしては、貸館利用者に対して早めに声掛け・周知を行い、展示・ステージ発表の参加につなげた。前日にいきセン職員で展示の準備を行った。当日はステージの持ち場を担い、スムーズな運営に貢献した。

### ③ いきセン講座

市民活動への関心を高めるきっかけとなるよう、「ふれあいひろば」と同時開催とし、地域で実際に活動している方を講師とすることで、身近で親しみやすい内容となるよう企画した。

## 3 事業実施による効果・達成度

### (1) 当初の事業効果、目標等

#### ① サークル活動立ち上げ支援

ア) 各自好きな楽器を持ち寄り演奏することで、参加者同士の交流を深め、つながりのきっかけとなること、また参加者主体で継続運営されることを目標とした。

イ) サークルの立ち上げにあたり、無理なく体を動かす機会をつくることで運動へのハードルを下げ、誰でも気軽に参加できる場づくりを目指し、自立的に活動を広げられるようにすることを目標とした。

ウ) 初心者でも安心して参加できる環境のもと、健康づくりや体力向上、護身意識の向上など、それぞれの目的に応じた取組を促すこと、参加者を増やすことを目的とした。

#### ② ふれあいひろば

ア) 市民活動者同士が事前に意見交換を行い、「ふれあいひろば」の内容や進め方について共通認識を持つことを目標とした。

イ) 参加団体がそれぞれの活動内容に応じて発表できるよう、ワークショップ形式とステージ形式の両方を取り入れ、多様な発信と交流の場をつくることを目標とした。

ウ) 利用者に日頃の活動成果を披露できる場を提供すること、および他センターとの交流の機会を生み出すことであった。事業全体としては、これまで地域内にとどまっていた各センターの催しを「ひと・まち交流館京都」という広い場所に移し、より多くの京都市民へ活動を発信するとともに、センター間の交流やイベント運営のノウハウ共有を促進することを目標とした。

#### ③ いきセン講座

市民活動をテーマとした講座を通じて、河川レンジャーの活動への理解と応援の輪を広げながら、市民が活動に興味をもつきっかけをつくること、地域で活動する人材の掘り起こしにつなげることを目標とした。

## (2) 事業実施による目標の達成度

### ① サークル活動立ち上げ支援

ア) サークル活動の立ち上げ支援を通じて、参加者がそれぞれの楽器を持ち寄り、ともに演奏を楽しめる場を創出することができた。参加者同士の交流も生まれ、音楽を通じた市民活動のきっかけづくりとして一定の成果が得られた。ただ、参加人数の変動により安定した演奏体制を維持することが難しい面もあったため、定期開催という形はいったん区切りとした。その後も活動は続いており、参加者の中から同じ楽器仲間のつながりが生まれ、オカリナグループが新たに誕生するなど、それぞれの形で音楽活動が広がっている。

イ) 当初はリーダーを持ち回りとしていたが、負担に感じて参加を控える方もいたことから、運営方法を見直し、リーダーを配置する形で活動を進めることとした。その結果、安心して参加できる環境が整い、一時は2名まで減少していた参加者数も現在では21名まで増加した。想定をうわまわる人数となり、より広い会場を確保して活動を行うこととなった。こうした積み重ねを経て、活動は自立した形で継続できるようになった。

ウ) 2日間の体験を通じ、5名の参加があり沖縄空手に初めて触れる機会を創出した。参加者からは好意的な反応が得られ、地域における伝統武道への関心の芽を育むことができた。自立には至らなかったが、市民の「やってみたい」を形にするお手伝いができた。また、講師からも地域の方々に空手の魅力を直接伝えられる貴重な場になったと喜んでいただけた。

### ② ふれあいひろば

ア) 交流会において、当日の流れ・発表内容・ステージプログラムの順番・チラシ広報の方法など、多岐にわたる事項について参加団体間で意見交換を行い、共通認識を持った上で本番に臨むことができた。

交流会を重ねる中で、昨年の様子を収めた動画をQRコードにしてチラシに掲載するアイデアが生まれ、参加前から当日の雰囲気イメージしてもらえるような工夫につながった。また、バルーンアートを使ったフォトスポットを設けるなど、退場者が楽しめる場づくりも団体間の話し合いから実現した。さらに、前年度の会場配置で不便だった点を参加団体が率直に出し合い、皆で話し合いながらより動きやすい配置を考えることができた。こうした前年度の反省を活かした取り組みが、21団体が参加するイベントをスムーズに実施することにつながり、目標は概ね達成できたと考える。

- イ) 21 団体が参加し、活動紹介や発表を通じて来場者との交流が生まれた。また団体同士をつながりの機会にもなり、当初の目的をおおむね達成することができた。参加団体がそれぞれの活動内容に合わせて発表ができ、多様な発信と交流の場をつくることができた。準備段階での工夫もあり、「これまでセンターの存在は知っていたが、このようなイベントがあることで入りやすかった。今回初めて来館できて良かった」といった声も聞かれ、新たな来館者のきっかけづくりにもつながった。
- バルーンによるフォトスポットは、特に若い来場者に好評で、写真撮影を楽しむ様子が見られるなど、会場のにぎわいづくりにも寄与した。
- 事業アンケートや市民活動団体から以前要望のあった飲食ブースについて、吉祥院おやじの会の協力により、ハンバーガーと焼きそばを出展してもらった。来場者からも好評であり、会場内で昼食をとれる環境を整えたことで、来場者の滞在時間の延長やふれあいひろば全体のにぎわい創出につながった。
- チラシでの事前周知や会場レイアウト・動線の見直しといった工夫もあり、来場しやすい雰囲気づくりができ、全体として来場者の増加につながった。
- ウ) 当センターの利用者には、展示では絵画、木目込み人形、能面、ステージ発表ではヒップホップダンスとフラダンスの両面で参加いただき、日頃の活動を広い場で発信するという目標は達成できた。また、他センターの職員や出展者との関わりを通じて、センター間の交流という目標についても一定の手応えが得られた。

### ③ いきセン講座

「ふれあいひろば」と同時開催したことで、普段は市民活動にあまり関心のない方にも講座を聞いていただくことができた。実際に活動している河川レンジャーを講師としたことで、内容に具体性と親しみやすさがあり、桂川の魅力や過去の水害の話を通じ、地域課題と市民活動のつながりへの理解が深まった。

講座とは別にブースを設け、活動の展示や個別での説明を行った。その中で講師が独自にアンケートを実施し、市民の関心やニーズを把握することができ、今後の活動の参考となった。実際にこの結果をもとに今年度の活動予定が検討・決定された。

## 4 今後の抱負

本事業を通じて、サークル活動立ち上げ支援では市民が気軽に参加できる活動の入口づくり、ふれあいひろばでは活動団体同士および来場者との交流促進、いきセン講座では市民活動への関心喚起と理解促進を図ることができた。

今後は、これらの事業を相互に関連づけながら、参加者が「知る」「参加する」

「継続する」流れをより強化し、市民活動の裾野を広げるとともに、地域で主体的に活動する人材の発掘・育成につなげていきたい。

● ストレッチ同好会 ●



● 沖縄空手 ●



● ふれあいひろば  
交流会 ●



● 音楽サークル ●



● ふれあいひろば ●



● みんなの文化祭 ●



【事業名】地域交流拠点事業（サロン運営・活用事業）

① 子育てサロン

（ア 児童館コラボ事業 イ はしる図書館 ウ いきセン物々交換会 エ 親子クッキング）

② 放課後学習会

③ 今日は何の日（ア ラララ♪歌の日 イ 筋力トレーニング ウ ハーバリウム作り）

④ 作品展（ア 吉祥院児童館作品展 イ 合同作品展）

⑤ みんなのサロンプロジェクト

事業の概要

1 開催日時：①子育てサロン

ア）・ベビーマッサージ 令和7年6月18日(水)／10月15日(水)

令和8年2月4日(水) 各日 10時～12時

・工作 令和7年8月1日(金) 12時～16時

・親子ヨガ 令和7年9月8日(月) 10時～12時

・スクラップブック作り 令和7年12月18日(木) 10時～12時

イ) 令和7年8月9日(土) 11月22日(土)

各回 2部制 11時～13時 14時～16時

ウ) 令和7年6月29日／9月7日／11月16日／12月21日

令和8年2月22日／3月22日 各日 日曜日 10時30分～12時30分

エ) 令和8年1月24日(土) 10時30分～12時30分

②放課後学習会 令和7年4月～2026年3月

毎週月曜日（祝日休み）17時～19時30分 計37回

③今日は何の日

ア) 令和7年4月～令和8年3月

毎月第1・第3金曜日（8月は休み） 13時30～14時30分

イ) 令和7年4月～令和8年3月

毎月第2月曜日（祝日の場合翌週） 13時30分～14時30分

ウ)・ハーバリウムづくり 令和7年8月9日(土) 13時～15時

・生花アレンジ 令和7年12月14日(日) 11時～15時

④作品展

ア) 令和7年9月1日(月)～9月13日(土) 10時～16時30分

イ) 令和8年2月12日(木)～3月11日(水) 10時～16時30分

⑤みんなのサロンプロジェクト 随時

2 開催場所：①～⑤ 吉祥院いきいき市民活動センター 別館サロン

3 参加人数：①子育てサロン ア) 延べ75名 イ) 67名 ウ) 延べ約225名 エ) 4名

②放課後学習会 延べ158名

③今日は何の日 ア) 延べ614名 イ) 86名 ウ) 14名

④いきいき作品展 ア) 約65名 イ) 約100名

⑤随時

4 協力団体等： 吉祥院児童館・日本新薬株式会社・清和園・明日香デイサービス

京都市保健福祉局健康長寿のまち・京都推進室健康長寿企画課食育担当

5 予算： 2,037,000円 / 決算： 1,953,001円

## 1 事業内容

地域間や世代間での積極的な交流の場を提供し、発掘した人材の活動の場とする事業を実施し、市民にとって住みやすい、顔の見えるまちづくりを目的とする。また、事業を通してサロンの利用促進につなげる。

### ① 子育てサロン

#### ア) 児童館コラボ事業

近隣の児童館と連携し、児童館主催のイベントを実施。親子で楽しめる内容とした。  
・ベビーマッサージ・工作・親子ヨガ・スクラップブックング

#### イ) はしる図書館

日本新薬株式会社が所有、運営する移動図書館「はしる図書館キラキラ未来ゴー！」をお招きし、子どもたちが本に親しむ機会を提供した。同社の地域貢献活動の一環として実施したものであり、地域企業との連携による子どもの読書環境づくりに取り組んだ。

#### ウ) いきセン物々交換会

子育て世代の方を対象に、家庭で不要になった子ども服やおもちゃ、本などを持ち寄り、自由に交換できる物々交換会を実施。持参だけでなく持ち帰りのみや、立ち寄って見るだけ、会話を楽しむだけの参加も歓迎し、気軽に足を運べる場づくりを大切にした。リユース活動を通じて、地域のつながりや交流のきっかけを提供するために取り組んだ。

#### エ) 親子クッキング

食育を通じて家族のコミュニケーションを深めるとともに、料理の楽しさや食べることの大切さを学ぶ機会を提供した。当日は食育指導員のもと身近な食材を使い、おにぎり、シュウマイ、豆腐白玉団子づくりに取り組んだ。

### ② 放課後学習会

元教員や大学生ボランティアスタッフが見守る中で、分からないところを気軽に質問することができる学習の場として小学校 5・6 年生と中学生を対象に「放課後学習会」を実施した。加えて、学習支援の一環として、夏休みには課外授業として日本アイ・ティ・エフ株式会社を見学し、社会や仕事への理解を深める機会を設けた。

### ③ 今日は何の日？

ア) 懐かしい昭和の歌やフォークソング、童謡、叙情歌など多様な楽曲を用い、参加者は歌唱に加え、軽い体操も取り入れながら、心身のリフレッシュを図る。

イ) 65 歳以上の方を対象に、家庭で継続的に取り組んでいただけるよう、京都市が開発したプログラムを紹介。

ウ) 季節の花材を用いたフラワーアレンジメント講座。

初心者でも気軽に参加できる内容として、ハーバリウム作り、生花アレンジを開催

④ いきいき作品展

- ア) 児童館の子どもたちが作った作品の展示
- イ) 市民の手作り作品やオリジナル作品の展示

⑤ みんなのサロンプロジェクト

誰にとっても分かりやすく親しみやすい環境整備を行う。

あわせて、事業参加をきっかけに増加している若い世代の自由来館による利用を継続的に促進し、世代を問わず交流できる場としての活用を図る。

「いきいきガーデン倶楽部」を中心に、ボランティアや地域の教育・福祉関係機関と協働し、四季折々の花の植栽を行い、親しみやすい外観づくりを進める。

併せてサロン内部の整備を整え、再来したくなる居心地の良い空間にする。

また、近隣の保育園や児童館と連携し、花壇を活用した植栽活動を行うなど、地域に開かれたサロンづくりを推進する。

2 準備段階での工夫

① 子育てサロン

ア) 児童館との連携にあたり、事前に打ち合わせを行い、親子が安心して過ごせる雰囲気づくりを大切にした。

イ) 子どもたちが参加しやすいよう、第1回は夏休み期間に合わせて開催した。暑さ対策として、移動図書館は屋外に設置しつつ、読書は冷房の効いたサロン内でゆっくり楽しめるようにした。

第2回は「屋外でのびのび楽しんでもらいたい」という思いから、気候の穏やかな11月に開催。近隣の保育園や児童館にも声をかけ、多くの子どもたちに来てもらえるよう準備を進めた。

ウ) 協力団体である At-Kyoto (アットキョウト) から物品の寄付や運営ノウハウの提供を受け、円滑な実施に向けた体制を整えた。

エ) 親子で無理なく取り組める食材や調理工程を選定し、作業内容を分け、安全面にも配慮した。

② 放課後学習会

昨年度は中学生を対象としていたが参加者が少なかったため、今年度は対象を小学校5・6年生にも広げた。地域での声掛けを丁寧に行うことで、少しずつ参加者の増加につながった。また、各学年に合わせた問題集を用意し、それぞれの学習段階に応じた支援ができるよう工夫し、宿題や勉強用具を持参しなかった子どもにも対応できるように準備した。また、学習支援だけでなく、学ぶことへの興味や将来への関心が広がるよう、夏休みに会社見学の計画をした。

③ 今日は何の日

ア) 参加者が親しみやすいよう、幅広い楽曲を選定した。歌うだけでなく、無理のない軽い体操も取り入れた。

イ) 家庭でも無理なく取り入れられる内容とした。

ウ) 季節感を楽しめる花材を取り入れ、初心者でも安心して参加できる内容とした。

#### ④ いきいき作品展

ア) 児童館に事前に足を運び、作品の内容を把握したうえで展示方法を検討した。

イ) 近隣のデイサービス2か所へ参加を呼びかけるとともに、作品の搬入が困難な方は自宅まで伺い、作品を預かる対応を行った。

#### ⑤ みんなのサロンプロジェクト

・毎月「別館サロン便り」を作成し、サロンで開催される事業を一目で把握できるカレンダーとして来館者に配布した。

・サロンの庭の整備に向け、必要な道具や植木を事前に調達。

・サロン内部の環境改善に向け、レイアウトや備品の見直しを実施。

### 3 事業実施による効果・達成度

#### (1) 当初の事業効果、目標等

##### ① 子育てサロン

ア) 子育て世代同士の交流を促進することを目指した。児童館との連携を深めながら、これまでサロンを利用したことのない方にも足を運んでいただくきっかけづくりにつなげる。

イ) 子どもたちが自由に本に触れ、読書を楽しむ機会をつくる。

ウ) 子育て世代が気軽に集い、交流できる居場所をつくること、また不用品のリユースを通じて環境意識を高める、子育て中の孤立感の軽減やリフレッシュの機会を提供することを目的とした。

エ) 食育を通じて親子のコミュニケーションを深め、料理の楽しさや食べることの大切さについて理解を深めていただくことを目標とした。

##### ② 放課後学習会

子どもたちが安心して学習に取り組める居場所をつくること、わからないことをそのままにせず相談できる環境を整えること、そして学習支援を通して学ぶ意欲や将来への関心を育むことを主な目標とした。企業見学のような体験の機会を設けることで、自分の視野を広げるきっかけになることを期待した。

##### ③ 今日は何の日？

ア) 音楽と体操を通して心身のリフレッシュを図り、参加者同士の自然な交流を生み出すことを目標とした。あわせて、歌うことによる健康効果にも着目し、脳の活性化や記憶力の維持・向上、認知症予防への働きかけ、発声による誤嚥防止、ストレス発散など、心と体の両面に良い影響をもたらす機会となることも期待した。

イ) 事業の場だけでなく、日常生活の中でも継続して取り組んでもらうことを目標とした。

ウ) 創作活動を通して心のリフレッシュを図り、参加者同士の交流のきっかけとすることを目標とした。

#### ④ いきいき作品展

地域住民や子ども、高齢者が作品展を通じて交流し、多世代のつながりを深めることを目的とした。また、市民が制作した作品の発表の場を提供するとともに、幅広い市民の参加によるにぎわいの創出目標とした。

## ⑤みんなのサロンプロジェクト

「親しみやすい環境整備」「世代を問わず交流できる場の形成」「地域に開かれたサロンづくり」といった目標に向けて取り組んだ。

### (2) 事業実施による目標の達成度

#### ① 子育てサロン

ア) 当日は親子で楽しむ様子が多くみられ、参加者同士での交流が生まれていた。児童館との連携により、普段サロンを利用しない方にも知っていただくきっかけになった。

イ) 8月・11月の両開催を通して、子どもたちがそれぞれの環境の中で楽しそうに本を選び、夢中になって読書する姿が印象的だった。季節に応じた工夫により、快適でゆのびとした読書の場を提供することができた。本の貸出総数も約300冊となった。

ウ) 年間を通じて多くの方に参加いただき、特に父親の参加も多く見られた。参加者同士で活発に物品交換が行われ、服を選びながら自然と会話生まれるなど、和やかな雰囲気の中で交流が広がった。子育て中の方が、ほっと一息つける場として、一定の役割を果たすことができた。

エ) 当日は、食育指導員による手の洗い方からの丁寧な指導のもと、子どもたちは少し緊張した様子を見せながらも、包丁を使ったりシュウマイ包んだりといった工程に意欲的に取り組み、楽しそうな表情が印象的だった。完成後には「自分で作ったものは美味しい」といった声や笑顔が見られ、食べることへの喜びや感謝の気持ちを育む機会となった。

#### ② 放課後学習会

対象者を見直したことで、参加者が徐々に増え、継続して利用する児童も見られるようになった。わからない点をその場で解決できる機会が生まれ、学習への前向きな姿勢につながっている様子がうかがえた。また、放課後学習会を通して日々の学習を支えるだけでなく、夏休みの会社見学では、実際の仕事のしくみに触れることで、学ぶことの意味を身近に感じるきっかけにもなった。学習面での支援と体験的な学びの両方を取り入れたことで、学びへの意欲を育てる場づくりに一定の成果があったと考えている。

#### ③ 今日は何の日?

ア) 歌をきっかけに自然と会話が生まれ、笑顔が多く見られるなど、交流の場としての効果が十分に発揮された。歌唱だけでなく、講師による楽しい曲紹介や軽妙なやり取りが場の雰囲気を和ませ、参加者がそれに応じてツッコミを入れるなど、笑いのある和やかな空間が生まれていた。さらに、このような良好な活動により来年度からは、講師が吉祥院いきセンの会議室を活用し、自主的に活動を継続していくことになった。

イ) 参加者から「家でもやってみたい」という声に加え、「実際に継続してとりくんでいます」といった嬉しい報告も聞かれるようになった。また、参加者がご友人を誘ってくださり、参加数の増加にもつながっている。

ウ) 夏休み期間中の開催により、子どもを含む幅広い年齢層の参加があり、多世代がともに作品づくりを楽しむ場となった。制作中は、色合いや配置について参加者同士で声を掛け合い自然に助け合う様子が見られるなど、交流の広がりが感じられた。完成作品の満足度も高く、お互いに見せあいながら感想を伝え合う姿も見られ、世代を超えたコミュニケーションの機会として有意義な時間となった。

#### ④ いきいき作品展

多くの家族連れが来場し、会場はにぎわいを見せた。

他の事業で来館された方も作品を鑑賞して帰るなど、幅広い来場者に作品を見てもらう機会となった。デイサービス利用者の家族からも好評だった。また、市民の作品を鑑賞した地域住民から「自分もやってみたい」と声上がり、実際にサークル活動へ参加する方も見られた。来場者数も昨年を上回り、目標は概ね達成できた。

#### ⑤ みんなのサロンプロジェクト

毎月のサロン便りによって来館者の参加意欲が高まり、サロンの認知度が向上した。花壇整備や植栽を通じて、ボランティアや保育園、児童館など多様な世代との関わりが増え、地域との連携が深まった。外観や内部環境の改善により、来館者からは「居心地が良い」「また来ます」といった声が寄せられ、自由来館の継続利用にもつながった。

### 4 今後の抱負

#### ① 子育てサロン

今後も、児童館をはじめとした地域の関係機関と連携しながら、親子を中心に多世代が気軽に集える居場所づくりを継続していきたい。各事業については実施状況を踏まえた見直しを行い、「はしる図書館」は実施時間や方法の工夫を検討する。「物々交換」は来館者とのコミュニケーションを大切にしながら円滑な運営を図り、親子クッキングは調理室の利用促進も目的としているため、形を工夫し継続する。

#### ② 放課後学習会

これまでの支援に加え、体験的な活動や実習的な要素も取り入れることで、学ぶ楽しさや興味関心を広げられるような取り組みを進めていく。さらに、継続的な声掛けや周知を行いながら、参加者の広がりや学習習慣の定着につなげていきたい。

#### ③ 今日は何の日？

今後も、地域や世代を超えた交流の場として、誰もが気軽に参加できる取り組みを大切にしていきたい。参加者の声も取り入れ、より親しみやすく継続しやすい内容へと工夫を重ねていく。

#### ④ いきいき作品展

今後も地域や関係機関とも連携を深め、より多くの市民が参加しやすい作品展を目指す。継続して出展してくれている方の参加を大切にしつつ、新たな出展者の発掘にも取り組み、参加者の裾野をひろげていく。

#### ⑤ みんなのサロンプロジェクト

今後も季節ごとの植栽活動をさらに充実させ、地域住民が主体的に関われる仕組みを強化していく。サロン便りをはじめとした情報発信の方法を工夫し、より幅広い世代に参加を促す取り組みを進めたい。

● 児童館コラボ ●



● はしる図書館 ●



● 物々交換会 ●



● 親子クッキング ●



● 放課後学習会 ●



● ららら♪うたの日 ●



● ハーバリウム作り ●



● 筋トレ ●



● いきいき合同作品展 ●



● いきいきガーデン ●



Before



After



● 青い空保育園の菜園(芋・玉ねぎ) ●



### 3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

#### 1 利用料金の収入実績

〔令和7年度実績：1,979,800 円（前年度比 107%）  
内訳 会議室等：1,979,800 円〕

#### 2 管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

### 4. 施設の利用者満足度の把握

#### 1 利用者満足度の把握状況

##### (1) 全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】 令和7年11月実施

【調査項目】 窓口サービス

##### (2) センター独自アンケート

事業実施時にアンケートを実施

#### 2 利用者満足度把握の結果

##### (1) 全センター共通窓口サービス

| 満足  | 普通  | 不満 | 無回答 |
|-----|-----|----|-----|
| 84% | 15% | 1% | 0%  |

##### (2) センター独自アンケート

概ね満足。

#### 3 意見等への主な対応状況

○利用者からの意見・要望をしっかりと受け止め、人気の高い事業は継続しながらより良い内容となるよう改善に取り組んでいく。また、利用者が気軽に相談や声かけができるよう、日頃からスタッフとのコミュニケーションを大切にし、満足度の向上につなげていく。

## 5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

- ・ 取り組んだ事業等の総括を記載してください。

貸館事業については、年間利用件数を上回り、単発・定期利用ともに増加傾向が見られた。平日夜間はダンスや空手、事業者の定期利用が集中して高い稼働率を維持し、日曜日も楽器演奏や居合など活動が多様化。利用者への丁寧なヒアリングと積極的な声掛けを通じてニーズを把握した結果、定期利用団体による個人レッスン利用も増え、利用形態の幅が広がっている。

令和7年度に実施した事業の中でも特に力を入れてきた4つの取り組みについて、着実な成果と次年度以降につながる手応えを得ることができた。

なかでも「ふれあいジャンボリー実行委員会自立に向けた支援」では、4年間にわたり積み重ねてきた支援の結果として、地域団体が主体となって事務局（とりまとめ）を担う体制へ移行することができた。当センター主体で進めてきた事業が、地域主体へと引き継がれていく姿を見届けることができたことは、本年度の取り組みの中でも特に大きな喜びであった。また、「ふれあいひろば」では、交流会を重ねる中で参加団体同士の意見交換と情報共有が進み、昨年度の反省点も踏まえながら、より来場者が楽しめる企画づくりにつなげることができ、結果として昨年度を大きく上回る来場者につながった。

21 団体が参加するイベントをスムーズ運営できたことは、積み上げてきた連携の成果といえる。

「ららら♪うたの日」では、講師による自主的な活動継続の意向が生まれ、今年度からは当センターの会議室を活用しながら継続されることとなった。センター事業として始まった活動が、参加者と講師の力によって自立的な活動へ発展したことは、大きな成果であった。

「みんなのサロンプロジェクト」では、これまで雑草が多く、十分に活用されていなかったサロンの庭について、センタースタッフとボランティアが協力して整備を行い、継続な手入れや植栽を進めた結果、以前の様子を知る方が驚くほど美しく整った空間となり、来館者からも好評を得ることができた。また、庭づくりを通して地域住民やボランティアとの関わりも広がり、サロンが地域交流の場としてさらに親しまれるきっかけとなった。

- ・ 今後、解決すべき課題等があれば記載してください。

貸館の利用件数は増加傾向にあるものの、平日夜間に利用が集中新規利用者が入りにくい状況であるため、既存の利用者とのバランスに配慮しながら新規利用の受け入れ機会の確保に努めることが課題である。

料理室など認知度が低い設備については、事業を実施し積極的なPRに取り組み、利用促進につなげていく。

- ・ 次年度に向けた対応について記載してください。

定期的なヒアリングとアンケートを通じて利用者の声を収集し、施設のルールや設備の改善に反映していく。

○ 施設の管理運営（事業の実施を含む）に当たって、何か重要又は異例な事項があれば記載してください。

例）重大な事故やコンプライアンス違反等があった場合は、その概要、改善策等を記載

例）年間事業計画にある事業の中で、実施できなかった事業があった場合は、その事業の名称及び内容、実施できなかった理由、中止した事業の取扱い（翌年度（令和 7 年度）に実施するのか、しないのか。）等を簡潔に記載

特になし

【締め切り】

5 月 22 日(金) までに地域自治推進室へデータ 1 部＋紙 1 部を提出

※ 地域自治推進室の確認後、紙の残部（1 7 部又は 1 8 部）を提出

※ 収支決算書は、5 月 15 日(金) までに提出してください。